

2019年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年5月14日

上場会社名 株式会社エム・エイチ・グループ 上場取引所 東
 コード番号 9439 URL https://mhgroup.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役兼執行役員社長 (氏名)朱峰 玲子
 問合せ先責任者 (役職名)取締役兼執行役員管理本部長 (氏名)家島 広行 (TEL)03(5411)7222
 四半期報告書提出予定日 2019年5月14日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期第3四半期の連結業績(2018年7月1日~2019年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第3四半期	1,462	△7.2	51	92.3	52	95.6	34	136.7
2018年6月期第3四半期	1,576	13.6	26	—	26	—	14	—

(注) 包括利益 2019年6月期第3四半期 34百万円(136.8%) 2018年6月期第3四半期 14百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年6月期第3四半期	3.05	—
2018年6月期第3四半期	1.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年6月期第3四半期	1,637	646	39.5
2018年6月期	1,538	612	39.8

(参考) 自己資本 2019年6月期第3四半期 646百万円 2018年6月期 612百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年6月期	—	0.00	—	—	—
2019年6月期(予想)	—	—	—	0.20	0.20

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年6月期の連結業績予想(2018年7月1日~2019年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,100	1.4	45	8.4	45	7.1	30	16.0	2.65

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年6月期3Q	11,332,100株	2018年6月期	11,332,100株
2019年6月期3Q	48株	2018年6月期	48株
2019年6月期3Q	11,332,052株	2018年6月期3Q	11,332,052株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績の見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(追加情報)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用情勢や所得環境、企業収益に改善傾向が見られ、緩やかな回復基調にあるものの、海外経済の不確実性や通商問題の動向、地政学的な不安の高まりなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する美容業界におきましても、先行きの不安感などに起因する顧客の節約志向は少なからず影響を及ぼしており、それは来店周期の長期化、低価格サロンの増加による店舗間競争の激化等を招いております。また、美容業界はオーバーストア状態にあるなかで美容専門学校生は減少傾向にあり人材確保が業界全体の課題であり、経営環境は厳しい状況にあります。しかしながら一方では、男性顧客の美容室の利用率の増加、アジアをはじめとする海外での日本の美容サービス・商品に対するニーズは高まっております。そして近年髪に悩みを抱える顧客は増加傾向にあり、その期待に応えることができる信頼と専門性を備えたサロンの需要は増加することが見込まれます。

このような状況のもと、当社グループは、安易な安売り競争に走ることなく、従来通り教育により高い技術を有するスタッフを育成し、質の高いサービスを提供し続けることに重点を置いております。選別消費の傾向が強まるなか、当社がターゲットとする顧客層においては、ヘアケアサービス、ホームケア製品やヘアデザインの再現性を高めるスタイリング製品の購入件数増加など顧客単価は着実に上昇しており、当社グループはサロン運営で培ったノウハウを活かしたプライベートブランド商品を中心に顧客への訴求力を高めております。当第3四半期連結累計期間においては、エイジングケアに特化した「モッズ・ヘア ラジュニール」シリーズのシャンプー&トリートメント、髪・肌やリップなど全身に使える「トゥールヌソルバム」を新商品として発売し高評価を得ております。今後、より収益性を高める上では、商品展開とともにサロンでのリピート回数を増やし顧客として定着する割合を向上させなければなりません。こちらは、従前よりSPC（サービス・プロフィット・チェーン）のフレームワークに基づき、従業員満足度と顧客満足度を同時に高めることにより店舗の収益力を更に向上させるプログラムに取り組んでおり、今後もこれを継続してまいります。そして近年当社グループの新たな取り組みであるメンズ専門ヘアサロンは、既存のモッズ・ヘアサロンに比べ顧客単価は低いものの新たな顧客層の獲得につながっております。2018年9月には新たにモッズ・ヘアMEN南越谷店（BSサロン）を出店しており、今後もこのメンズ専門ヘアサロンは直営サロン・BSサロンを問わず需要が高まることが見込まれます。また、業界全体においては美容師の人材不足により大型サロンを維持できず閉店するサロンや後継者不在のため閉店するサロンが増加しております。これは当社のBSサロンにおいても例外ではありません。当社グループのBSサロン運営事業においては、既存BSサロンの健全経営をサポートするとともに、業界を取り巻く環境を見極め戦略的な新規出店を実現することが重要な課題であります。

当第3四半期連結累計期間の売上高につきましては、直営サロン運営事業及び美容室支援事業は堅調に推移し前年同期に比べ増収となりました。一方、BSサロン運営事業において前連結会計年度より既存コンテンツの強化策の一つとしてWEB通販の販路の拡大を図っておりますが、当該WEB通販の収益性の向上に重点を置くために施策を変更したことにより売上高は前年同期に比べ減少いたしました。この影響が大きく、結果、グループ全社の売上高は前年同期に比べ減収となりました。また、海外BSサロンの中国での展開において、サービス品質及び収益性の向上を目指すべく、現地マスターフランチャイジーと協議のうえ、当第3四半期連結累計期間中に17店舗を閉店し経営資源を集約しております。これにより中国の店舗数は一時5店舗となりましたが、現地マスターフランチャイジーとの連携をより強化し、技術及びサービスに係る教育の支援、店舗運営指導の実施など実施し着実な店舗展開を進めております。営業利益につきましては、美容室支援事業が堅調に推移し前年同期に比べ増益になるとともに、前々連結会計年度より取り組んでいるモッズ・ヘアサロン運営事業の再建策の成果が表れてきた直営サロン運営事業の収益改善が牽引した結果、グループ全社の営業利益も前年同期に比べ増益となりました。経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、営業利益の増益を受けいずれも増益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,462,858千円（前年同期比7.2%減）、営業利益51,319千円（前年同期比92.3%増）、経常利益52,134千円（前年同期比95.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益34,527千円（前年同期比136.7%増）となりました。

セグメント別の状況については以下のとおりであります。

(直営サロン運営事業)

日本全国に展開するBSサロン(フランチャイズサロン)のフラッグシップサロンとして、首都圏主要地域を中心に直営サロン15店舗(モッズ・ヘアサロン14店舗、その他1店舗)を展開しております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、前々連結会計年度より取り組んでいるモッズ・ヘアサロン運営事業の再建策の成果が生産性の向上等にも表れており、前年同期に比べ増収増益となりました。

直営サロン運営事業の当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高891,883千円(前年同期比0.7%増)、セグメント利益42,716千円(前年同期比328.6%増)となりました。

(BSサロン運営事業)

「モッズ・ヘア」では、本部、加盟店という従来のフランチャイズ関係ではなく、共に一つのブランドをシェアするという意味で、BSサロン(ブランドシェアサロンの略)と呼んでおります。当第3四半期連結累計期間の店舗数の異動は、国内ではオープン1店舗(埼玉県・MEN南越谷店)、閉店1店舗、海外ではオープン8店舗(韓国6店舗、台湾1店舗、中国1店舗)、閉店19店舗(韓国2店舗、中国17店舗)となりました。その結果、当第3四半期連結会計期間末日現在におきまして、国内49店舗、韓国29店舗、台湾4店舗及び中国6店舗の計88店舗となっております。

また、前連結会計年度より既存コンテンツの強化策の一つとしてWEB通販の販路の拡大を図っておりますが、当該WEB通販の収益性の向上に重点を置くために施策を変更したこと、前述の中国での店舗数減少に伴う海外ロイヤリティ収入の減少等により売上高、営業利益ともに前年同期に比べ減少しました。

BSサロン運営事業の当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高322,356千円(前年同期比26.6%減)、セグメント利益123,742千円(前年同期比6.8%減)となりました。

(ヘアメイク事業)

当社は、「モッズ・ヘア」の原点であるフランス・パリのスタジオワーク専門のヘアメイクチームのプロフェッショナル精神を引き継いだ「モッズ・ヘア」ヘアメイクチームを有しております。

当社のヘアメイクチームは、ヘアメイクアーティストのエージェンシーとして「パリコレクション」や「東京コレクション」などへの参加や、CM・ファッション雑誌など年間2,000件を超える媒体を手掛けるなど、国内及び海外で高い評価を得ております。

ヘアメイク事業におきましては、売上高はメディア部門が堅調に推移したものの、スタジオ部門及びブライダル部門における季節変動あるいは一時的な外的要因による減収を補うには至りませんでした。また、将来に向けた人材確保等の費用も先行したため、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高273,656千円(前年同期比2.3%減)、セグメント利益15,661千円(前年同期比19.5%減)となりました。

(美容室支援事業)

当社グループでは、日本国内でのモッズ・ヘアサロンの事業展開を通じて、様々なスケールメリットが創出されます。それをサービス化したクレジット決済代行サービス、株式会社ティビィシィ・スキヤットとの提携による美容サロン向けPOSレジ顧客管理システムを一般のサロンに提供する等の美容室支援事業を行っております。

美容室支援事業の主力であるクレジット決済代行サービスの契約件数、取扱高は堅調に推移しており、加えて美容サロン向けPOSレジ顧客管理システムの販売も寄与し、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高57,120千円(前年同期比4.2%増)、セグメント利益24,538千円(前年同期比24.7%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ98,932千円増加し、1,637,861千円となりました。主な要因としましては、現金及び預金の増加94,349千円、未収入金の増加74,372千円、有形固定資産の減少21,660千円、のれんの減少11,845千円などによるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債につきましては、前連結会計年度末に比べ64,134千円増加し、990,903千円となりました。主な要因としましては、未払金の増加84,747千円、未払費用の増加7,278千円、社債の減少14,000千円、受入保証金の減少8,000千円などによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ34,797千円増加し、646,958千円となりました。主な要因としましては、親会社株主に帰属する四半期純利益34,527千円などによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年6月期の通期の業績予想は、2018年8月17日付「2018年6月期 決算短信」にて公表いたしました業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	305,170	399,519
売掛金	124,269	116,745
商品	78,151	71,452
未収入金	489,569	563,941
その他	45,500	43,239
貸倒引当金	△3,752	△5,589
流動資産合計	1,038,909	1,189,309
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	330,468	319,495
減価償却累計額	△197,726	△203,753
建物及び構築物(純額)	132,741	115,742
工具、器具及び備品	80,240	80,504
減価償却累計額	△44,072	△48,998
工具、器具及び備品(純額)	36,168	31,506
その他	540	540
減価償却累計額	△403	△403
その他(純額)	137	137
有形固定資産合計	169,047	147,386
無形固定資産		
のれん	101,542	89,697
その他	1,689	658
無形固定資産合計	103,232	90,355
投資その他の資産		
投資有価証券	4,781	4,668
長期貸付金	65,698	32,208
関係会社株式	9,438	8,758
差入保証金	147,993	142,778
リース投資資産	39,134	29,918
その他	24,780	23,354
貸倒引当金	△66,198	△32,708
投資その他の資産合計	225,629	208,978
固定資産合計	497,908	446,720
繰延資産		
社債発行費	2,110	1,831
繰延資産合計	2,110	1,831
資産合計	1,538,929	1,637,861

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,689	12,205
1年内償還予定の社債	14,000	14,000
未払金	595,061	679,809
未払費用	32,060	39,338
未払法人税等	9,302	8,014
未払消費税等	25,695	23,845
ポイント引当金	3,877	4,087
賞与引当金	2,076	990
その他	21,267	21,968
流動負債合計	720,031	804,259
固定負債		
社債	72,000	58,000
長期未払金	30,413	30,413
受入保証金	75,000	67,000
資産除去債務	11,801	11,866
退職給付に係る負債	8,337	8,978
役員退職慰労引当金	6,800	8,000
繰延税金負債	2,385	2,385
固定負債合計	206,737	186,644
負債合計	926,768	990,903
純資産の部		
株主資本		
資本金	500,000	500,000
資本剰余金	129,496	102,149
利益剰余金	△17,537	44,337
自己株式	△13	△13
株主資本合計	611,945	646,473
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	214	101
その他の包括利益累計額合計	214	101
新株予約権	-	383
純資産合計	612,160	646,958
負債純資産合計	1,538,929	1,637,861

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2017年7月1日 至2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2018年7月1日 至2019年3月31日)
売上高	1,576,477	1,462,858
売上原価	1,100,922	1,043,207
売上総利益	475,555	419,651
販売費及び一般管理費	448,864	368,332
営業利益	26,690	51,319
営業外収益		
受取利息	10	11
為替差益	20	-
未払配当金除斥益	-	304
貸倒引当金戻入額	-	1,000
その他	536	151
営業外収益合計	567	1,467
営業外費用		
支払利息	280	227
社債発行費償却	279	279
為替差損	-	140
その他	50	5
営業外費用合計	609	652
経常利益	26,648	52,134
特別利益		
資産除去債務戻入益	-	2,394
特別利益合計	-	2,394
特別損失		
関係会社株式評価損	-	679
固定資産除却損	722	504
店舗閉鎖損失	862	-
特別損失合計	1,584	1,184
税金等調整前四半期純利益	25,064	53,344
法人税、住民税及び事業税	10,475	18,817
法人税等合計	10,475	18,817
四半期純利益	14,589	34,527
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,589	34,527

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益	14,589	34,527
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△56	△112
その他の包括利益合計	△56	△112
四半期包括利益	14,532	34,414
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,532	34,414
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2017年7月1日 至 2018年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	BSサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	885,604	439,208	280,013	54,809	1,659,636	△83,158	1,576,477
セグメント利益	9,966	132,706	19,453	19,683	181,810	△155,119	26,690

(注) 1. セグメント利益の調整額△155,119千円には、棚卸資産の調整額206千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△155,326千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2018年7月1日 至 2019年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	直営サロン 運営事業	BSサロン 運営事業	ヘアメイク 事業	美容室支援 事業	計		
売上高	891,883	322,356	273,656	57,120	1,545,017	△82,159	1,462,858
セグメント利益	42,716	123,742	15,661	24,538	206,658	△155,339	51,319

(注) 1. セグメント利益の調整額△155,339千円には、棚卸資産の調整額△162千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△155,176千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない全社的一般経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。